

邑楽町へ来たる 白き冬の使者

毎年冬になると、何千キロも離れたシベリアから越冬のために、この国を目指して飛んでくる白鳥。邑楽町でも多々良沼西側にある沼(通称「ガバ沼」)で見ることが出来ます。今シーズンも続々飛来中です。

冬の寒さが本格的になると、寒さを逃れるため何千キロも離れたシベリアから温暖な日本へとやってくる渡り鳥、白鳥。環境省の「自然環境保全基礎調査」によると、日本に飛来する白鳥はオオハクチョウとコハクチョウの2種で、毎年合わせて約6万5千羽といわれています。

越冬する白鳥の飛来地の

一つでもある邑楽町。役場庁舎の南側にある、おうら中央公園「やすらぎの池」、そして多々良沼の西側にある「ガバ沼」でその姿を見ることが出来ます。ちなみに「ガバ沼」の由来は、ほうきの材料となるガマが、昔この一帯に生い茂っていたことから「ガバ沼」といわれるようになったそうです。

町では例年、約200羽の飛来数が観測されていますが、邑楽町に飛来する白鳥の多くはコハクチョウです。体長が約1.2m、翼を広げると1.8mもの大きさです。純白の羽を広げた姿は、とても優雅です。ちなみに、純白なのは成鳥で、幼鳥のときは灰色をしています。

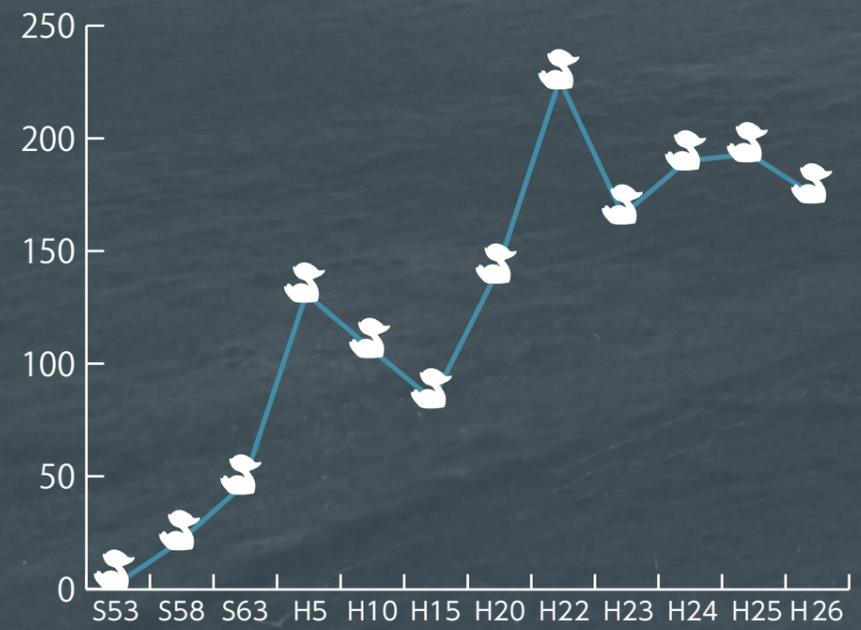
その白鳥を見ようと町内外から多くの人が訪れます。白鳥は今や町の貴重な観光資源の一つです。

今回のクローズアップでは、町内の白鳥ウォッチングポイントを紹介します。また、白鳥のために活動している人にお話を聞きました。

白鳥の飛来地

ガバ沼

ガバ沼の白鳥飛来数



2016年、元旦。ガバ沼から初日の出を見るために多くの人が訪れました



「白鳥が飛来するまち」を
町外の人にもPRしたい

初めて多々良沼に白鳥が飛来したのは、昭和53年12月のことでした。沼の東側に2羽飛来してきたといえます。その後、平成4年からは突然沼の西側(ガバ沼)に飛来するようになり、白鳥にとってガバ沼の環境が越冬条件として好ましくなったのが、要因だと考えられています。

以来、ガバ沼には毎年白鳥が飛来するようになり、年々その数は増加。多いときには、200羽以上の飛来を観測したときもありました。

おかげさまで「白鳥が飛来するまち」としてマスコミなどでも数多く取り上げられていることもあり、年々その知名度も高くなってきています。今では邑楽町の貴重な観光資源の一つと言っても過言

ではありません。

町ではPRの一環で、白鳥を愛する会と協力し、今年も1月31日にガバ沼で白鳥まつりを開催しました。多くの人に訪れていただき、うれしい限りですが、今年は暖冬の影響もあり現時点で例年より白鳥の飛来数が少ないです。まだ飛来シーズン半ば、白鳥が飛んで来ることを願います。

白鳥の優雅な姿は、見る人を引きつけ、親子で水面を泳ぐ姿は、なんだかほんわか心が癒やされます。担当課としても、白鳥を愛する会と協力し、今後も「白鳥が飛来するまち」を町内外に発信していきたいと考えます。何より、町外からのお客様を積極的に誘客し、町の活性化につなげたいですね。

役場 商工振興課
小林 聖史さん

Interview

町内の白鳥
ウォッチングポイント



Watch
観新田 ガバ沼
場所▶多々良沼公園西側
毎年多くの白鳥が飛来。餌をあげているときは、目の前で白鳥が見られるかも？



Watch
観新田 浮島弁財天
場所▶多々良沼公園内
浮島から白鳥が観察できます。運が良ければ、頭上を飛ぶ大迫力の白鳥が見られます



Watch
中野 やすらぎの池
場所▶おうら中央公園内
役場庁舎の南側にある池も白鳥飛来地の一つ。散歩しながら白鳥観察はいかがですか



Watch
邑楽町篠塚地内の田んぼ
場所▶国道354号南側
エサをついばむ白鳥が田んぼの中で初めて目撃されました。次はどこの田んぼで見られるのでしょうか



本年度、県の整備事業により多々良沼公園が整備されました。より快適な環境で白鳥を見るための場所となりました。ぜひ足を運んでみてください

- ①休憩スペース…ちょっと疲れたときには座って白鳥を観察することができます。風よけもついていますので、快適に観察可能です
- ②トイレ…今まではトイレが近くなかったガバ沼。安心して観察できます
- ③駐車場…舗装された駐車場と遊歩道。駐車台数は33台です



Interview

今年も白鳥が越冬の時期に、より過ごしやすい環境をつくるため、白鳥の「コーコー」という声を聴くと「今年もお帰り」という気持ちになります。

今年もガバ沼周辺も整備され、白鳥を観察しに来る人たちの環境も良くなったと思います。

この活動が続けられている

私たちが活動は続きます。そして3月中旬ごろになると白鳥たちがシベリアに帰ります。鳴き声を出しながら、空を旋回し始めると帰る合図です。その姿はとてもいとおしいです。それを見ると「また来年も帰っておいで」という気持ちになります。

それだまた一年、白鳥のために頑張っていこうと、会の原動力につながっています。

邑楽町白鳥を愛する会
会長 時崎 清さん
(鶏上・12区)

愛らしくも優雅な白鳥たちが
古里に降り立つことが原動力に

会の活動は、平成14年に始まりました。観光資源でもある白鳥を保護するためにさまざまな活動をしています。

主な活動は、白鳥の餌やりとガバ沼周辺の清掃。当番を決めて、毎日午前8時～8時30分と午後3時～3時30分の2回、餌やりをします。また、朝のごみ拾いも会員が手分けして行っています。

それ以外も、白鳥の越冬の時期に、より過ごしやすい環境をつくるため、白鳥の「コーコー」という声を聴くと「今年もお帰り」という気持ちになります。

今年もガバ沼周辺も整備され、白鳥を観察しに来る人たちの環境も良くなったと思います。

この活動が続けられている



邑楽町白鳥を愛する会

平成14年に発足し、会員数は24人(平成27年度現在)。観光資源の一つであるガバ沼の白鳥を保護するためにガバ沼周辺の環境整備や白鳥への餌やりを行っています。また、小中学生に白鳥への興味を持ってもらうと、学校の授業の一環として、白鳥オリエンテーリングや総合的な時間に白鳥の生態を説明するなどの活動を行っています。



白鳥たちが大好きな、パンや小麦、白菜などをまいています(餌やり風景)



小学生に白鳥のこについて説明します(中野東小学校白鳥オリエンテーリング)

白鳥も愛してやまない、おうら町